

曼

曼は、冒^{ボウ}と又(予)との会意形声字です。冒は、帽子の本字で、上の𠂔が帽子の象形です。下の目は、目の所まで“目深くかぶる”という意味で付けたものです。従って、冒は防寒用の帽子と思えばよろしいでしょう。寒い時には、少しでも多く顔を包みたいので、やっと目が見える所まで帽子を下げるものです。歩いているとだんだんずり下がってきて、目が見えなくなりますが、それでもつい、危険をおかしてそのまま進もうとするものです。そこで、冒は“危険をおかす”という意味に転じて、「冒険」という使い方が生まれました。そのため、帽子の意味を表わす字としては、**冒**に、材料の布を表わす部首の巾をつけて帽としたのです。

曼は、帽子を目深くかぶった人の手を取って“手を引いてやる”のが本義の字です。転じて、“引っぱる”ことから“長く伸びる”という意味に使われるようになりました。音は冒^{ボウ}が変化してバン。普通は呉音のマンで読まれます。

蔓は、草と、長く伸びるという意味の曼とで、“草の長く伸びるところ”つまり“つる”を表わしたものです。「蔓延^{マンエン}」は蔓^{つる}が延^のびるという字義ですが、“はびこる”ということで、「病気が蔓延する」というようにも使われます。

鰻は、“長く伸びた魚”という意味の字ですから、言わずと知れた“う

なぎ”です。

饅は、“大きく引き伸ばされた食べ物”という意味の字で、ふくらし粉を使って原形より大きくふくらませて作った「まんじゅう^{ジュウ}」(饅頭)のことを言います。頭のように“まるい”という意味で「饅頭^{マントウ}」と言います。なまって、「まんじゅう」になりました。

幔は、“長く引きめぐらされた布”という意味の字で、“長く引き渡す幕”のことを言います。普通「幔幕^{マク}」というように使います。

漫は、蔓延(ひろがる)という意味の曼に水のしるしを加えて、“水が広々としている”様子を表わした字です。「漫々」は、海の広々と果てもなく続く有様を表現したものです。“果てもない”という意味で、“心の趣くままにする”「漫遊」「漫步」「漫筆」「漫談」などのことばが生まれました。「漫画」も、その意味のことばです。

慢は、“心が果てもなく大きく広がる”ことを表わした字です。「慢心」「驕慢」など、“おごりたかぶる”意味と、「放慢」「怠慢」など“しまりがないう”意味とがあります。また、“長びく”意味に「慢性病」という使い方もあります。これはむしろ、「曼性」と書くべきものでしょう。「自慢」と同じ意味であるべき「我慢」が、遂に“放慢をおさえる”意味に使われているのはどういうわけでしょうか。仏語では「我慢」とは、“自分を偉く思い、他人を軽蔑する”という意味に使い、また、わが国でも古くは、「我慢」は“わがまま”の意味に使っていたのです。